

## 板橋区環境教育推進プランの進捗状況について

本プランは、持続可能な社会の構築に向けて、板橋区における環境教育の基本的な方針を示すとともに、区民、区民団体、事業者、学校等、区が展開すべき環境教育の推進に必要な事項を定めることにより、各主体それぞれの環境教育及び各主体の連携による環境教育の効率的・効果的な推進を目的とし、平成 19 年 2 月に策定された。

本プランの進行管理は、PDCA サイクルを用い、指標による目標の達成状況により点検・評価することとし、環境教育が効果的に実施されているかどうかをはかるものさしとして、15 の成果指標を設定し、平成 19 年度から平成 27 年度までの 9 年間の数値目標を立てている。

計画の 6 年目にあたる平成 24 年度末における成果指標の達成状況について、以下のとおり報告する。

## 1. 成果指標及び目標に対する進捗状況

成果指標	計画当初 平成 17 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	目標 (平成 27 年度)	達成率
① エコポリスセンターホームページのアクセス件数	83,880 件	35,015 件	20,306 件	36,500 件	55.6%
② 環境教育プログラム利用学校数	-	53 校	59 校	全校(77 校)	76.6%
③ プログラムバンクの登録人数	-	58 人	194 人	300 人	64.7%
④ プログラムバンクの登録プログラム数	-	180 件	187 件	200 件	93.5%
⑤ いたばしエコ・ショップの店舗数	97 店舗	113 店舗	102 店舗	150 店舗	68.0%
⑥ 環境保全キャンペーン参加者数	24,673 人	22,056 人	30,240 人	30,000 人	101%
⑦ エコチェックシートの得点 (エコチェックシート参加者数)	54.5 点 (488 人)	56.2 点 (3,655 人)	57.8 点 (3,872 人)	満点(70 点)	82.6%
⑧ 小・中学校における環境学習の時間数	-	4,025 時間	4,118 時間	4,000 時間	103%
⑨ 環境講座等参加者数 (内エコポリスセンター環境講座等参加者数)	15,423 人 (4,199 人)	22,302 人 (12,155 人)	21,283 人 (11,349 人)	30,000 人 (10,000 人)	70.9% (113%)
⑩ 環境イベント等参加者数 (内エコポリスセンター環境イベント等参加者数)	53,623 人 (34,858 人)	42,059 人 (41,109 人)	52,112 人 (27,267 人)	60,000 人 (50,000 人)	86.9% (54.5%)
⑪ エコポリスセンター事業へのボランティア等参加者数	341 人	632 人	534 人	1,000 人	53.4%
⑫ エコポリスセンター登録環境団体数	10 団体	22 団体 (こどもエコクラブ 7 団体含む)	21 団体 (こどもエコクラブ 6 団体含む)	30 団体	70.0%
⑬ こどもエコクラブ登録団体数	7 団体	-	-	⑫に統合	-
⑭ 集団回収登録団体数	782 団体	829 団体	842 団体	900 団体	93.6%
⑮ 環境学習講師派遣実施件数・派遣人数	120 人 (延 29 校)	453 人 (延 132 校)	265 人 (延 111 校・園)	500 人	53.0%

## 2. 進捗状況の結果について

成果指標のうち、目標値を達成している項目は⑥環境保全キャンペーン参加者数、⑧小中学校における環境学習の時間数、の2件であった。また、前年度からポイントの下がったものが6項目、上がったものが8項目であった。各指標の概要は以下のとおり。

### ①エコポリスセンターホームページアクセス件数

#### <指標の説明・目的>

本指標は、エコポリスセンターホームページを通じて環境情報の発信や講座やイベント情報の発信など、環境に関心をもってもらいたくためのツールの一つとして指標にしたもの。

#### <計画当初の目標値と現在の目標値の変更について>

当初の目標値            ・ ・ ・ ・ ・ 260,000 件  
 22 年度改定            ・ ・ ・ ・ ・ 73,000 件  
 24 年度改定            ・ ・ ・ ・ ・ 36,500 件

#### <24 年度の取組結果と増減>

24 年度	20,306 件／年 (55.6 件／日)	ホームページ...15,972 件、Facebook...4,334 件
前年度比	-14,709 件／年 (-40 件／日)	

#### <要因分析と方向性>

主な減少の要因として、24 年度は 9 月から 12 月まで館内の改修工事（地下 1 階）があり、例年実施していた企画展（3 件）などが実施できなかったことも影響の一つと考えられる。

センターの事業に関する情報の見せ方や発信の工夫を行いながら、Facebook、Twitter の更新頻度を上げ、区民の目に触れる機会を増やしていく。また、区民が「見たい」、「知りたい」と思う情報は何か、という視点を持ち、変化に対応していく。

### ②環境教育プログラム利用学校数

#### <指標の説明・目的>

環境教育プログラムとは、さまざまな場において実践されている環境教育・環境学習の中から、板橋区の地域特性などを加味しながら、発達段階に応じて開発した体験的・実践的なプログラム。

環境教育・環境学習を行う際に、教員などの指導者が活用（または参考に）しやすいように、プログラムの進め方や時間配分、使用する道具やワークシートなどを掲載した「環境教育ハンドブック」を作成している。また、その内容を「プログラムバンク」に登録し、インターネット上で公開している。ハンドブックは区立全小中学校と、公立・私立の保育園・幼稚園へ配布している。

本指標は、区立小中学校においてハンドブックとプログラムバンクのいずれかを活用している学校の数をあらわすもの。

#### <24 年度の取組結果と増減>

24 年度	59 校／77 校 (小学校 46／54 校、中学校 13／23 校)
前年度比	+6 校

なお、24 年度に利用の多かったプログラムは『No.22 緑のカーテンを作ろう』、『No.7 地球温暖化ってなんだろう』、『No.10 ごみはどうやったら減るんだろう』、『No.4 ヤゴ救出作戦』であった。

▽アンケート結果

プログラムの分野	H 2 2	H 2 3	H 2 4
地球温暖化（緑のカーテン含む）	5 4	8 3	1 5 4 (+71)
エネルギー	1 2	5 3	6 6 (+13)
ごみ	3 8	5 6	6 5 (+9)
食糧問題と環境	1 5	5 0	4 9 (-1)

### ＜要因分析と方向性＞

環境教育ハンドブック（またはプログラムバンク）に対する教職員への認知度はいまだ低く、ハンドブックの発行当初からの課題となっている。そのため、校長会や各教員研究部会などへの周知をさらに行ないながら、総合的な学習の時間に限らず、社会科、理科など様々な教科で活用できることも含めてPRしていく。

授業時間以外での活用についても、部活動や移動教室での活用など様々な事例を集めて紹介することで、活用の広がりを見つけていく。

## ③プログラムバンク登録人数

### ＜指標の説明・目的＞

本指標は、多くの環境教育の担い手（指導者）が、様々な場で活躍して頂くため、エコポリスセンターの登録制度に登録された人数を指標としている。環境教育・環境学習は、学校や保育園、エコポリスセンターなど行政だけで行うだけでなく、様々な区民や環境団体等の担い手による環境学習の機会を促進し、多様な環境教育活動に対応していこうとするもの。

登録制度は、エコポリスセンターなどの事業のほか、学校や地域などから環境学習の要請があったときに内容に応じて派遣している。

### ＜24年度の実績結果と増減＞

24年度	194人
前年度比	+136人

### ＜要因分析と方向性＞

主な増加の要因は、これまで登録していなかったサポートボランティアとして活躍できる資質を備えた「かんきょう観察員」、「インターンシップ」、「緑のカーテンサポートクラブ」、「熱帯環境植物館インタープリター」、「緑のサポーター会議メンバー」が新たに加わったため。

近年、高齢を理由に更新を辞退される方もあり、若手の人材確保も喫緊の課題となっている。今後も目標達成に向けて、指導者養成講座の参加者などへ登録を呼び掛けやエコポリスセンターに来る子ども達に「キッズサポーター」として登録してもらうことも考えている。

## ④プログラムバンク登録プログラム数

### ＜指標の説明・目的＞

指標②環境教育プログラムをインターネット上で公開する「プログラムバンク」に登録しているプログラムの件数をあらかずのもの（平成19年度からの登録数の累計）。

環境教育の幅広い分野を網羅し、また発達段階に応じたプログラムを提供するため、毎年プログラムを追加している。

数値は「板橋区環境教育プログラム」と「環境教育プログラム事例」を合計した数。前者は環境教育プログラム部会において開発された板橋区独自の環境教育プログラム。後者は全国で実践されているプログラム事例を収集し、その概要を紹介するもの。

### ＜計画当初の目標値と現在の目標値の変更について＞

当初の目標値　　・・・・・・300件  
22年度改定　　・・・・・・200件

### ＜24年度の実績結果と増減＞

24年度	187件（環境教育プログラム73件、プログラム事例114件）
前年度比	+7件

24年度は「板橋区環境教育プログラム」6件と「プログラム事例」を1件、新たに登録した。

さらに、既存プログラムのうち、データが古くなっているプログラムなどの改善を行った。

### ＜要因分析と方向性＞

22年度までは年間40件程度の登録を行ってきた。22年度末で累計158件となり、内容が似ている

プログラムも見られるようになってきた。

23年度からはプログラム数の充実から内容の充実にシフトし、新規プログラムの開発と同時に、過去に登録してきた既存プログラムの見直しと改善を進めている。引き続き、新規プログラムの開発と事例収集によって目標値達成を目指しつつ、活用促進の視点で既存プログラムの改善も進めていく。さらに、話題性・緊急性のあるテーマをプログラム化し、活用を高めていく。

## ⑤いたばしエコショップ店舗数

### <指標の説明・目的>

「いたばしエコショップ」は、ごみの減量及び再生商品の販売その他リサイクルに積極的に取り組んでいる事業者を、区がりサイクル推進事業者として認定し、区民にホームページ等で紹介している。

### <24年度の実績結果と増減>

24年度	102店舗
前年度比	-11店舗

### <要因分析と方向性>

2年ごと(奇数年)の更新を行っているが、更新時の登録辞退や廃業などが減少の要因となっている。

区民への周知は、ホームページでの公開のほか、区民まつり等のイベントでパンフレットによる紹介を行っている。今後は、区民まつり等のイベントでのPRやエコショップ・スタンプラリーなどの実施を検討し、登録を促していく。

## ⑥環境保全キャンペーン参加者数

### <指標の説明・目的>

エコポリス板橋環境行動会議との共催によるポイ捨て防止キャンペーンやクリーン作戦など、広く区民に呼び掛けて取り組んだ事業(キャンペーン)の参加者数を指標としている。

### <24年度の実績結果と増減>

24年度	30,240人
前年度比	+8,214人

### <要因分析と方向性>

主な増加の要因は、東日本大震災の影響により、23年度に大幅に落ち込んだ参加者数が、24年度に回復したためと考えられる。

今後も各キャンペーンの目的や効果が広く区民に浸透するよう、PR方法の改善などを図り、参加者数の増加につなげていく。

## ⑦エコチェックシート得点

### <指標の説明・目的>

区民の環境意識の変化について状況を把握するために行っているチェックシート。チェック項目を点数化し、意識の度合いが上がっているか確認するもの。イベントや講座等でチェックしている。

### <24年度の実績結果と増減>

24年度	57.8点/70点満点(参加者数3,872人)
前年度比	+1.6点(参加者数+117人)

### <要因分析と方向性>

計画当初(19年度)からみると、区民の環境意識は徐々に高まっていると考えられる。

それぞれの項目が区民の日常生活に定着するよう、今後も啓発活動を続けるとともに、点数の低い項目(地域での清掃活動、エコ商品の購入)に焦点をあてた取り組みやキャンペーンを検討し、平均点の上昇につなげていく。

## ⑧小中学校における環境学習の時間数

### <指標の説明・目的>

区立小中学校において、環境学習がどれくらい実施されているかをはかる指標。毎年、取り組み状況をアンケート調査している。

### <計画当初の目標値と現在の目標値の変更について>

当初の目標値 ・ ・ ・ ・ ・ 2,000 件 ※計画当初は授業件数を指標としていたが、学習の実施規模を把握するため授業“時間数”を指標とした。

22 年度改定 ・ ・ ・ ・ ・ 4,000 時間（授業単位時間）

※板橋区では、環境学習の時間の目安として、小学 3 年生から中学 3 年生までの各学年に、総合的な学習の時間を中心に、年間 10～15 時間を充てることが望ましいとしている。

### <24 年度の取組結果と増減>

24 年度	4,118 時間
前年度比	+93 時間

### <要因分析と方向性>

24 年度は前年度より 93 時間増加し、目標値の 4,000 時間を達成した。

今後も環境教育カリキュラムや環境教育プログラムを充実し、より板橋らしい環境教育が浸透していくことを目指し、4,000 時間以上を維持していく。

## ⑨環境講座等参加者数

### <指標の説明・目的>

エコポリスセンターをはじめ、区が行っている環境に関する講座等の実施状況やその参加者数を集計し、指標としている。

### <24 年度の取組結果と増減>

24 年度	21,283 人（うちエコポリスセンター実施分 11,349 人）
前年度比	-1,019 人（うちエコポリスセンター実施分-806 人）

### <要因分析と方向性>

主な減少の要因は、「エコポリスセンター出前講座（-1,678 人）」や「緑のカーテン育成講習会（-167 人）」などであった。とくに出前講座のうち「ヤゴ救出作戦」の実施回数が減ったことが要因であった。

一方、エコポリスセンターの施設見学を兼ねて行う「環境ミニ教室」の参加者数は前年比で 600 人余り増加、放課後にエコポリスセンターに来た子どもたちを対象にした「エコ放課後塾」の増加（600 人余り）など、エコポリスセンターの新しい取り組みによって参加者を増やしている項目も見られた。

今後はさらにボランティアや環境団体の自主企画講座など支援することで、環境講座の実施件数や参加者数を増やしていく。

## ⑩環境イベント等参加者数

### <指標の説明・目的>

区民の環境意識の向上のために実施している環境イベント等の参加者数を増やし、区民の環境への関心を高めるといふ指標。エコポリスセンターの環境イベントのほか、みどりと公園課のグリーンフェスタや区民まつりでの環境コーナーへの参加者数などを集計している。

### <計画当初の目標値と現在の目標値の変更について>

当初の目標値 ・ ・ ・ ・ ・ 100,000 人（内エコポリスセンター環境イベント等参加者数 60,000 人）

22 年度改定 ・ ・ ・ ・ ・ 60,000 人（内エコポリスセンター環境イベント等参加者数 50,000 人）

### <24 年度の取組結果と増減>

24 年度	52,112 人（うちエコポリスセンター実施分 27,267 人）
前年度比	+10,053 人（うちエコポリスセンター実施分-13,842 人）

### ＜要因分析と方向性＞

主な増加の要因は、東日本大震災の影響により、23年度に落ち込んだ参加者数が、24年度に回復したためと考えられる。また、エコポリスセンター実施分の減少要因は、9月～12月の施設改修工事により、企画展などイベントがその期間、実施できなかったためである。

今後はエコポリスセンター館内の環境イベントのみならず、大学祭や地域イベントへの積極的な出展も実施していく。

## ⑪エコポリスセンター事業へのボランティア等参加者数

### ＜指標の説明・目的＞

環境教育・環境学習の担い手（指導者やサポーター）をできる限り増やし、区内全域で環境ボランティアが活躍するよう目指している。本指標は、具体的にエコポリスセンターの事業に協力したボランティアの人数を指標としている。

### ＜24年度の実績結果と増減＞

24年度	534人
前年度比	-98人

### ＜要因分析と方向性＞

ボランティア導入の件数はそれほど減っていないが、多くのボランティアの協力を必要とする「ヤゴ救出作戦」の件数が減ったことが、人数減少の一因として考えられる。

今後は引き続き、エコポリスセンターの事業で積極的なボランティア導入やエコライフサポーターの拡大を行っていく。

## ⑫エコポリスセンター登録環境団体数

### ＜指標の説明・目的＞

本指標は、エコポリスセンターに登録している環境活動団体の数を指標としている。環境団体を増やし、区内の環境教育・環境学習の担い手として、ボランティアと同様に大きな役割を期待している。

### ＜24年度の実績結果と増減＞

24年度	21団体（こどもエコクラブ6団体含む）
前年度比	-1団体

### ＜要因分析と方向性＞

前年度からこどもエコクラブの登録が1団体減少した。

今後は、講座やイベント、展示などの事業協力をきっかけに学生団体やサークルなどにも登録を呼び掛けていく。また、いたばし総合ボランティアセンターを通じて、これまで登録に至っていない環境団体等への呼びかけを積極的に行い、協働の輪を拡大していく。

## ⑭集団回収登録団体数

### ＜指標の説明・目的＞

住民が10世帯以上集まって団体をつくり、収集の日時や場所をきめて、定期的に古紙（新聞・雑誌・段ボール）や古布などを集め、資源回収業者に引き渡す自主的な活動。その団体数を指標としている。

### ＜計画当初の目標値と現在の目標値の変更について＞

当初の目標値　・・・880団体  
22年度改定　　・・・900団体

### ＜24年度の実績結果と増減＞

24年度	842団体
前年度比	+13団体

### ＜要因分析と方向性＞

例年、マンション等の建設などにより年間10数件の増加がある。ごみの減量に寄与する身近なリサイクル活動であると同時に、地域コミュニティの醸成にも寄与しているため、今度も取り組みを促進していく。

## ⑮環境学習講師派遣実施件数・派遣人数

### ＜指標の説明・目的＞

本指標は、区内保育園や小中学校等における環境学習の出前講座を行う際にエコポリスセンターから指導者やサポーター、職員を派遣した人数を指標としている。

### ＜計画当初の目標値と現在の目標値の変更について＞

当初の目標値　・・・・・・・・実施件数 全校（78校）、派遣人数 500人

22年度改定　・・・・・・・・派遣人数 500人

### ＜24年度の取組結果と増減＞

24年度	265人（派遣件数 111校・園）
前年度比	-188人（-21校）

### ＜要因分析と方向性＞

主な減少の要因は、派遣件数の減少とともに、1回あたりの出前授業に要する派遣人数も減少したためと考えられる。

今後は、派遣件数の拡大のため、保育園や小中学校に対し、さらに積極的に出前講座等のPRを行っていく。

## 3. 成果指標の内訳

「資料3-2」に成果指標①～⑮各項目の内訳データをまとめた。

## 4. 参考指標の内訳

「資料3-3」に参考指標の内訳データをまとめた。